

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その6

「黄昏の太宰府」便り（第2回）

一地方都市が生き残るための条件とは①一

長濱和代（日本経済大学経営学部教員）

太宰府天満宮のHPによれば、本天満宮は、「学問・至誠・厄除けの神様」として、日本全国から年間に約1000万人の参拝者が訪れるそうである。天満宮は全国に点在するが、道真公のご墓所はここだけである。さらに太宰府天満宮から徒歩5分の場所に国立九州博物館がある。国宝級の展示物が、3ヶ月おきに変わって展示されていることもあり、太宰府天満宮とともに人気のある観光名所となっている。この2年余り、コロナ禍により観光客は減少したが、太宰府では地域の内外からの訪問が絶え間なくある。市の人口は約7万2千人で（太宰府市統計資料2020）で、この20年間で約6千人余り増加した。

地域を活性化させるためには、人の往来が必要である。その地域は魅力ある地域をアピールして、私たちが訪問したいと思える場所をいくつも併せ持てると良い。今回は「地方都市が生き残るための条件」と題して、太宰府近隣の魅力あふれる場所と人を紹介したい。

魅力ある街とは

魅力とは心を惹きつけ夢中にさせるような力である。では人を惹きつける力のある街は、どんな条件を備えているのだろうか？

日本経済大学（以下、日経大）の近くには、万葉集に詠まれた吹田温泉（現在は二日市温泉という）がある。私は疲労が蓄積すると、タオルと石けんを持参して、「二日市温泉に行きます！」と大学を出る。自転車を10分も漕げば、温泉のある湯町に到着する（写真1）。公営の『御前湯』は250円で、源泉掛け流しの『博多湯』は350円（土日は400円）で入浴できる。リッチな気分を味わいたい時は、昭和天皇が宿泊された大丸別荘の温泉がオススメで、ここは木造建築の建物と良く手入れされた庭園も魅力である。（1000円で土日のみ入館可能）。泉質はアルカリ単純ラジウム泉で、ラドンを多く含むお湯は、硫黄の香りが心地よく、しっとりとしていて「美肌の湯」として定評がある（筑紫野市観光協会HP）。その酸味のお湯の香りに癒やされ、飲用しては温泉のお湯の濃さを確かめ、温泉で身体が暖まれば、疲労が抜けていくのがわかる。不思議なことに入浴後、2時間は湯冷めしない。これは温泉の効用であろう。自分が訪れる時間帯は仕事を終えた20時前後で、同じ時間帯に通っていると顔見知りの仲間ができる。この地域に住んでおられるシニアの女性が多く、80代を超えているのに元気な美しい肌を維持されている女性も少なくない。お風呂場では必然的に裸のお付き合いとなり、社会動向から日常の仕事の愚痴まで、とりとめなく話のできる「温泉仲間」ができた。身体と心を開放できる場所のあることが、魅力ある街の条件として挙げられる。

この地域の人たちは私の情報収集について概して協力的で、街の知識に乏しい私にいろいろな情報を教えてくださる。昨年末に地域貢献の学外授業で、天満宮の歴史と地域の見所について語っ



写真1 二日市温泉の湯町

注 左手に御前湯、右手に博多湯がある

引用 「九州温泉コンテスト2016」

<https://www.welcomekyushu.jp/onsencontest/hotspring2015s/detail/7>

てくださったゲスト講師は、太宰府市内で開業する整体師の先生で、その講師の情報は温泉仲間のメンバーから仕入れた。これも温泉へ通う効果である。お風呂上がりは、帰路、近所の飲み屋で軽く一杯飲んでから、自転車をひいて大学の隣にある女子寮に戻る。ぐっすり眠れて、翌朝は元気に朝を迎えられる。職場の近くに歴史があり元気を回復できる温泉があるのは、私にとって贅沢な環境であると言える。

次に考えられる魅力ある街の条件とは、人が集まって情報交換できるスポットがあることである。カフェやレストラン、居酒屋やバー、朝市やマルシェなどであれば、食材の質が高く、料理が安くて美味しければ、その場で幸せを感じるだろう。人によってはスポーツクラブや美容室、エステなど、健康や美容にかかわる場で幸せ感を味わえるのかもしれない。他に情報交換できるスポットがあれば教えてほしい。店の主人やそこでの客など、その場で集う人たちと情報交換をしてネットワークが構築できれば、地域とつながり、そこでの生活が生き活きと楽しく感じられるようになる。地域の公民館や、図書館、コミュニティセンターにも行ってみたが、イベントやサークル活動に参加しないと、つながりを見いだすのが難しかった。

私が福岡で地域の人と交流できる場を求めて訪れた場所は、食事処で『武蔵』という焼鳥屋である。公民館を隔てた『御前湯』の隣にあり、写真 1 でも御前湯の奥に灯りがともっているのがわかるだろうか。店の大将は趣味がマラソンで、店内にはにっこり微笑んでゴールを決めた時の写真が飾ってあったので、ランニングを趣味とする私は初対面でも「走る」という共通の話題で話が弾んだ。大将はこの湯町から玄界灘に面した博多湾まで、時には海沿いにある『海の中道』まで 70 キロの道のりをランニングするランナーだった。あるとき移動のため自転車を漕ぎすぎた私は、キリキリと膝が痛むので大将に相談をすると、「博多まで行けば、良い整体師がいる。」と教えていただいた。その整体師は福岡天神の向こうの姪浜で開業されており、プロ野球選手も通われているのだという。太宰府から通うのはやや遠いと思ったが、電車に乗って 45 分の道のりを数回通い（帰路は姪浜から玄界灘を眺めて夕日が沈むのを多いに堪能した）、3 回も通うと整体の効果であろうか、膝の痛みがなくなった。また別の日には、御前湯@二日市温泉を出たあと武蔵へ寄った時は、私は所持金を 1000 円も持っていなくて、ツケ（次回払い）にさせていただいたこともあった。ここは私が生まれて初めて焼酎のボトルを置かせていただいた店でもある。

読者の皆さんには、ぜひ二日市へお越しいただきたいので、お店紹介を続ける。次のオススメ店は『バンバン』という居酒屋で、最新のカラオケ設備まで併設している。知人と赤提灯に魅せられて入店し、地域のお客さんらと親しくなった。南アジアで日本語以外の言語で聞き取り調査をしている習性からか、知らない人に話かけるのは得意である。この店で毎日、晩酌をされていた Y 氏からは、湯町地域の変遷について話を伺い、街の歴史について興味を持つようになった。Y 氏の名字は地域の地名にもなっており、この地域でのリーダー的存在であるといえる。

西鉄二日市から JR 二日市までは徒歩約 10 分の距離があり、二日市中央通り商店街でつながっている。Y 氏のお供として、この商店街の路地にある小料理屋へ行ったことがあった。そこは地域の歯科医師会が会合の後に集まるお店で、その日も歯科医のご夫婦が食事にいらしていた。Y 氏と歯科医の奥さまで話が盛り上がり、私も歯科医の先生とも意気投合。周りにいらした数名のお客さまとともに、料理店に隣接するご自宅兼診療所へ招待いただき、2 次会をして盛り上がった。初対面の私を、自宅に招いてくださるご夫妻の懐の深さに感銘を受け、それ以来、福岡ではその歯科診療所にはお世話になっている。ご夫婦のお人柄と、中央通り商店街に面している地の利の良さから、年代性別問わず、街で人気のある歯科診療所であると思われる。

さらに Y 氏は交友関係が広く、地域に住まうお仲間たちとの会があれば、折にふれ声をかけてくださる。今春は近くの公園で花見をするので参加しないかと誘っていただいた。土曜のお昼前から開始するとのことで、私は大学のオープンキャンパスの担当であったが、早く上がって会の終末に顔を出すことができた。公園で子どもたちが走り回る中で、残していただいた最後のビール 1 杯をご馳走になり、それまでの愉快的な会の様子を聴かせていただいた。Y 氏のように人的資源とネットワークを惜しみなく供与いただける方に感謝する。そして多くの人たちが集う場を貴重な機会をとらえ、自らも共有させていただくことは、地域への愛着を高めることにつながる。最近では、魅力ある街を創出することに自分も加わることができないか、地域貢献ができないか、などと考えるようになった。（文末の【追記】へ）

観光スポットを併せ持つこと～太宰府に隣接する街の魅力と名所

名古屋で生まれ育ち、千葉へ嫁に行って東京で仕事をしてきた私は、太宰府市については天満宮がある街として知っていたが、二日市温泉が位置する筑紫野市については、隣接するにもかかわらず、来福する（福岡に来る）まで、その地名すら知らなかった。二日市も筑紫野も、全国的にも決して知名度が高い地域ではない。そのため遠方から人の行き来は多くはないが、地域の人々の往来がある。太宰府の周辺地域には、こうした地域の人たちが足を運ぶ場所が少なくない。

先程挙げた二日市温泉、万葉集に書かれた吹田温泉であり、当時から現在に至るまで地域の湯治客で賑わった場所であるといえる。二日市温泉の近くには、九州最古の寺として知られる武蔵寺がある。建立は飛鳥時代から奈良時代にかけてとのことで、649年との説もある。先月には樹齢が約1300年と言われる『長者の藤』が美しく咲き（写真2）、地域の人たちの行き来が絶えなかった。また武蔵寺では、毎月第1日曜日の写経がある。さらに夏の土用丑の日（7月）には、『瓜封じ』という行事がある。瓜に願い事を書いて貼り付け、寺に奉納する。その瓜は本堂の前に埋められ、瓜が土の中で溶けるとともに願い事が成就するというロマンに満ちたイベントに惹かれて、私は毎年参加している。ちなみに私の願い事の1年目は博士論文の完成と提出、昨年は書籍出版であった。博論は昨年に提出、書籍は編者をした共著の初校ゲラが上がってきたところである。今年の願い事は何にしようかしらと、今から考えている。



写真2 武蔵寺の長者の藤
(2022年4月)

西鉄二日市駅の近くには、福岡で最古の酒造会社である大賀酒造がある。ここの純米酒は絶品なので、帰省のたびに入手しては配っているの、読者のみなさんにも是非、ご賞味いただける機会があれば幸いである。

この界限には多くの焼鳥店が競うようにあり、優に10軒は数えられる。地域の方によれば、福岡天神まで出なくても、レベルの高い創作串焼きがいただける。ちなみに私の夫は湯町の御前湯の隣にある「武蔵」がお気に入り、ボトルも置いてある。私は「むつごろう」を最良にしているが、「炭火串焼・鉄板いちみつ」や「炭火焼劇場・月空」へも遠方からの友を招待している。大学の仲間たちとは「焼き鳥もつ鍋・太閤」で何度も乾杯をした。

太宰府天満宮に近い、道真公由来の御自作天満宮や、天拝山はぜひ訪れてほしい。天拝山は道真公が何度も通い、自らの無実の罪を天に拝んだ山とされ、小学生の遠足でも歩ける標高2百メートル級の山である。毎朝、頂上でラジオ体操をするために登られるシニアの方々や、地域の方が掃き掃除をしている様子も見られる。頂上からは、街を一望でき、低山で1時間ほどのコースではあるが、歩いたことを実感できる。太宰府天満宮と九州博物館のあとは、二日市温泉とその周辺を往來すれば、さらにもう一泊しようかと、この地に滞在したくなる日程は伸びるであろう。

地方で魅力的な住処をどこに持つのか

私は日経大福岡キャンパスに着任して以来、大学に隣接した女子寮に住んでいる（写真3）。「オックスフォードハウス」と呼ばれ、日経大が提携しているオックスフォード大学や、イギリスの寮の雰囲気を感じられる洒落た作りになっている。大学の研究室まで徒歩で5分とい



写真3 大学の女子寮

引用 日本経済大学「オックスフォードハウス」（女子寮）
https://fukuoka.jue.ac.jp/facility_fukuoka/oxford/

う便利さである。寮内には天然温泉があり、コロナで閉館しない限りは 17～23 時まで入浴が可能であり、さらに寮費は無料（ただし寮生の指導あり）という条件から、私は採用と同時に入寮を決めた。その当時から教員部屋の空きがなく、学生と同じ棟で同じタイプの部屋に住んでいる。そのため入寮当初は、学生の大きな声や足音が夜遅くまで響いて聞こえることや、朝方に部活の朝練かアルバイトのためか、移動する学生のドアの開閉音などが気になっていた。入寮 3 年目となる今では、そうした環境に順応して気にならなくなった。部屋の内部にはキッチンがない、風呂がない、全面積で 8 畳ではモノが増えて狭く感じられると文句を言えばキリがないが、食堂で朝と晩に有料ではあるが食事を提供いただけることもあり、研究に専心するための職住隣接環境を最優先してきた。

そうなると湯町へ出かけない限り、通常は大学と女子寮との往復により朝から晩まで学生とともに過ごしていることになり、心安まる時がない。さらに写真 3 の遠景に見られるように周囲は山で囲まれ、地方の自然が豊かな環境に身を置いていることを折にふれ思い出し、窓の外を見渡しては、何処へ引っ越しをしようか思いを巡らせてきた。そこで大学周辺の物件として、アパートに戸建、賃貸マンションに古民家などを、夫や友人らを連れてあちこち見て廻ってきた。

東京の自宅と大学を行き来されている教授からは、西鉄二日駅前のマンションがコストパフォーマンスも良いからと勧められて、すぐに見に行った。2DK で敷金礼金なしの 45,000 円で家賃は申し分ないが、駅に近すぎてアナウンスや踏切の音が聞こえ、入り口がオートロックでないのはいかがかと考え断念した。他方、オートロックのあるビジネスホテルのようなマンションがいくつも西鉄と JR の間にあり、理想的住居環境のように見えたが、中に入れていただくと値段の割には部屋が小さく、静かではあるが女子寮の部屋と変わらないようにも思われ、魅力が感じられなかった。

それでは部屋がいくつもある戸建てはどうか。3～4DK で築 50 年前後の戸建ては、1 千万円台で大学の住宅街に多く売りに出されている。リノベしたら 2 千万円前後であり、理想の木造戸建て住まいである。ご実家が大学近隣にある佐藤宣子先生@九州大学に相談したら、「太宰府でそんな大きなおうちに住んで大丈夫なの？」と言われた。「大丈夫？」とは掃除やセキュリティ、さらに今後の修繕についてであろう。4DK もある家は、仕事持ちの单身者にとって維持するのが難しいかもしれない。

結果、身の丈にあった広さがありセキュリティが完備しているマンション、または広すぎない家が良いのだろうか。森林管理と利用について研究する立場からはすれば、木造の住まいに憧れがある。写真 3 の遠景にあるような林地に近い場所、または中山間地域に家を所有するのも悪くないだろう。そうなると通勤は大学から遠くなるため、大好きな自転車での移動は難しくなり、車を所有する必要があるだろう。最近は木造の高層建築物も出現しており、福岡にはその波はまだ来ていないようであるが、もっと私の収入が増えて貯蓄が貯まったら、木造のマンションを建造して馴染みの仲間とシェアをするのも悪くないかと思う。などど、あれこれ妄想は尽きない。

実際に 1 人暮らしの女性はどんな場所に希望して住んでいるのだろうか。湯町で温泉に行くたびに場所と時間を変えて、聞き取りをしていると、湯町が好きで住んでいるシングル女性は少なくない。お連れ合いがなくなり、1 人暮らしになったので、好きな時間に温泉に入りたいから湯町に引っ越ししてきたという女性に、この 2 年の聞き取りで少なくとも 2 名は出会った（週に 1 人は知らない方に声をかけているだろう。）。家を出たら、そこは湯町で温泉の香が漂い、朝から好きな時間帯に温泉に入りにいけるとい生活には憧れる。先の女性らのように湯町は老後を迎え、黄昏時を過ごす女性にとって、理想的な場所かもしれない。そうだ、次の住まいは湯町がいい。

時間を見つけては二日市温泉へ通う私に、「コモンズ論（共有地）の研究として森だけでなく、温泉の研究をしてはどうか」と、昨年度末の環境経済論の授業で、ゲスト講師として来福された林野庁の知人に勧められた。筑波大でお世話になった遠藤先生@兵庫県立大学らが温泉コモンズの研究をされていたことから、新規性は低いと思われるが、この地の歴史と湯町におけるコモンズ的利用として、事例研究は可能であろう。

結局、魅力的な住処を選び取るのは本人次第であり、収入の範囲で優先順位を決めて地域や場所を選択し、与えられた住居について魅力を感じられるような工夫と意識が必要だと思われる。心を惹きつけ夢中にさせる

ような魅力を持つ家にはどんな条件が必要なのか、私は自分の考えを整理しなければ、次へ進めないようである。

【追記】

太宰府市 & 大学発の地域貢献として、以下の日程でオンライン講座を開催します。ご都合よければ、読者の皆さまも是非ご参加ください。申込はこちらまで。

https://www.jue.ac.jp/for_alumni/public_program/0723-2022/

○日時 7月23日（土）13時30分～15時

○講座名 公共財としての森林—日本の森で起きていること

○内容 森林は私たちの暮らしに大きく関わっています。戦後、スギやヒノキ等が植林された結果、成長したスギが花粉を飛ばし、手入れ不足で災害を招く事例も起きている。なぜ、このようなことが起きるのか、日本の森林・林業の課題と、これからの森の使い道について考えます。
